

甲 第 号

田口 秀彦 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	浅田 秀夫
論文審査担当者	委員	教授	今村 知明
	委員(指導教員)	准教授	田中 利洋

主論文

A rat model of frozen shoulder demonstrating the effect of transcatheter arterial embolization on angiography, histopathology and physical activity

ラット凍結肩モデルを用いた経カテーテル的動脈塞栓術の効果に関する検討

Hidehiko Taguchi, Toshihiro Tanaka, Hideyuki Nishiofuku, Yasushi Fukuoka, Kiyoyuki Minamiguchi, Ryosuke Taiji, Katsutoshi Takayama, Maiko Takeda, Kinta Hatakeyama, Takashi Inoue, Chiho Ohbayashi, Kimihiko Kichikawa.

Journal of Vascular and Interventional Radiology 2020 Dec 9 (Online ahead of print).

論文審査の要旨

凍結肩をはじめとする慢性肩関節痛を有する患者において、疼痛部位に一致して微細な新生血管が認められることが知られている。近年、その新生血管を経カテーテル的に閉塞させる動脈塞栓術により、症状緩和効果が得られるとの報告が散見されるが、そのメカニズムは不明な点が多い。本研究ではラット凍結肩モデルを作成し、動脈塞栓術前後のラットの活動性や病理組織学的変化について検討された。その結果、動脈塞栓術によりラットの移動距離と速度に改善がみられ、組織学的に微小血管数と炎症細胞数の減少を認めた。本研究結果は、動脈塞栓術による凍結肩の疼痛緩和のメカニズムの解明につながるものと期待される。

公聴会の質疑応答では、動脈塞栓術の有害事象、長期的な評価の必要性、疼痛の評価法についての質問がなされたが、いずれにも的確な考察のもとに適切に回答されていた。

以上より、本研究は博士（医学）の学位に値するものと評価できる。

参 考 論 文

1. Comparison of embolic effect between water-in-oil emulsion and microspheres in transarterial embolization for rat hepatocellular carcinoma model.

Kiyoyuki Minamiguchi ,Toshihiro Tanaka ,Hideyuki Nishiofuku ,Yasushi Fukuoka ,Ryosuke Taiji ,Takeshi Matsumoto ,Natsuhiko Saito ,Hidehiko Taguchi , et al.

Hepatology Research. 2020; 50(11):1297-1305

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに画像診断・低侵襲治療学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和3年3月9日

学位審査委員長

皮膚病態医学

教授 浅田 秀夫

学位審査委員

公衆衛生医学

教授 今村 知明

学位審査委員(指導教員)

画像診断・低侵襲治療学

准教授 田中 利洋